

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）二戸ブロック 会議録

【二戸ブロック：二戸市、軽米町、九戸村、一戸町】

○ 日 時：令和元年8月7日（水）14時00分～16時00分

○ 場 所：二戸地区合同庁舎 1階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

二戸市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

軽米町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

九戸村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

一戸町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県北教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般4人、報道1人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 二戸ブロックの状況について

【県教委】

- ・ 資料 No. 1 「二戸ブロックの状況について」に基づき説明。

2 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

各地域における学校・学科の配置について

【県教委】

- ・ はじめに、ブロックの現状及び課題等、議論の方向性について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料「後期計画策定に向けた意見交換（二戸ブロック）」に基づき説明。

【五枚橋 九戸村長】

- ・ 参考資料No.1「県立高校（全日制）の入試状況の推移」には、平成29年から平成31年度の3年間の進学率を基にした令和2年度以降の入学者推計が記載されているが、この3年間の進学率を基にした推計値は、資料に記載されている数値により算出できるものか伺いたい。

【県教委】

- ・ 参考資料No.1に記載している令和2年度以降の入学者推計については、過去3年間の隣接協定による他県からの入学者数や私立高校への進学者数の状況等も含めて算出した数値となる。
- ・ 令和2年度以降の数値は推計であることから必ずしも正確なものではないが、過去のデータ実績から、誤差はわずかなものと認識している。

【山本 軽米町長】

- ・ 参考資料No.3「中学生の進路希望等に関するアンケート結果」では、進学先として希望する学科について記載されており、興味深く拝見した。
- ・ 現在の一戸高校の総合学科は素晴らしい学科であると認識している。かつて、二戸ブロックについては、一戸高校に農業科が設置され、また、福岡高校に商業科が設置されていたが、これらの専門学科が廃止された経緯を伺いたい。

【県教委】

- ・ 現在の二戸ブロックの設置学科については、過去の再編計画において検討され、農業や商業といった地域のニーズを踏まえて幅広く専門教科を学ぶことができる総合学科に再編したものである。
- ・ 専門学科として維持する場合には、各学科の定員が40人となることから複数の学科の設置が難しいが、総合学科に再編することで系列として複数の専門分野の学びを維持できるメリットがある。二戸ブロックには農業、商業、家庭、福祉に関する学科はないが、その役割を総合学科の系列の学びが担っているものである。

【県教委】

- ・ それでは、1点目「現状を踏まえ、今後、岩手中部ブロックに必要な学校・学科について」に関する御意見をいただきたい。

【山本 軽米町長】

- ・ 後期計画における高校教育の目指す方向性の中で、AIやIoT等の急速な技術革新の進展について記載されているが、このことは、高校教育に限定して考えていくことか、または、広く社会全体の人材育成への対応として考えていくことか伺いたい。
- ・ 進学塾等でもIoT化が進められている時代である。教育の質の保証や教育の機会均等の観点から、遠隔地においても質の高い教育を受けられるよう、IoTを活用した教育環境の整備を進めるべきである。

【県教委】

- ・ AIやIoTについては、主として教育を取り巻く環境の変化により広がる可能性を念頭に置いている。今後、県内の教育においても遠隔地の学校に応用できる部分があり、また、教育の分野以外についても活用していく方法があることを想定して記載したものである。

【田中 一戸町長】

- ・ 今後の少子化の進行を踏まえると、生まれ育った地域で学びながら巣立つことができる環境整備が大切である。高校生が様々な考えを持って進路実現に向けて挑戦していくためにも、地域に必要な学校、学科の配置について検討することは重要なことと認識しており、二戸ブロックにおいては、普通科の充実と多様性のある学校の設置が必要であると考えている。
- ・ 都市部であれば多様な専門高校が設置されているが、二戸ブロックでは、農業や商業、家庭やデザインの学科を設置しようと思っても、それぞれの学びを希望する生徒で1学科40人を充足させることは難しい状況にある。
- ・ 中学生アンケートについては、平成27年度に実施した結果と比較して、二戸ブロックでは総合学科への進学を希望する生徒が増加している。総合学科は学びに多様性を持たせるために教員を加配し、専門分野を学ぶための施設・設備も必要であるが、地域を担う多様な人材を育成する学科となるよう、さらなる充実に向けた議論が必要である。

【県教委】

- ・ 高校における学びの多様性は大切なことと捉えており、二戸ブロックでは総合学科の一戸高校が多様な学びを実現する役割を担っている。
- ・ 令和2年度の学級編制では、一戸高校は3学級を維持することで変更はないが、今後、学級規模が縮小していく中で現状の系列数を維持することが難しくなる課題もある。総合学科は複数の学びを選択できることがメリットなので、少子化が進行する中における総合学科のあり方については検討していく必要があると捉えている。

【田中 一戸町長】

- ・ 町内の介護福祉施設等は人材の育成に取り組んでいるところであるが、そのような進路を志望している生徒たちが地域社会で活躍する観点から、学校は大切な存在であると認識している。また、県北地域は縫製や服飾産業も盛んであり、地域産業と連携しながら地域産業を担う人材を育成する観点も踏まえて学科の配置を検討する必要がある。

【小野寺 二戸地区中学校長会（一戸町立一戸中学校長）】

- ・ 参考資料No.2「ブロック間交流の状況」では、二戸ブロックは地区外への転出が転入に比べて39人多い状況にあるが、二戸ブロック内に進学を希望する学科がないことが理由で他地域の高校に進学しているのか伺いたい。また、地区外の高校に転出する生徒は、専門高校よりも普通高校の方が多くと推測するが、転出者の詳細な状況について伺いたい。
- ・ 中学生が地域の学校を選択し、将来的に地域社会を担う人材として活躍していくためには、将来の進路希望に沿った学科の設置が必要である。

【県教委】

- ・ 中学生アンケートの質問4は、普通科や理数科を希望すると回答した生徒に限った設問なので専門学科を希望する生徒は含まれていないが、学区内に進学したい学校があると回答した生徒は、他のブロックと比較して少ない結果となっている。
- ・ ブロック間交流の状況については、二戸地区から私立高校へ進学した約30人も含まれており、スポーツや特色ある学びに取り組みたいと考える生徒が一定数いるものと認識している。
- ・ 一戸高校には農業系の系列があるが、より専門的に農業を学ぶために他地区の農業学科へ進学する生徒もいることから、高い専門性を身に付けたい生徒が他地区の学校に進学しているケースもあると考える。高校は生徒の希望により選択するものであるが、地区内の高校の学習内容等を十分に理解した上で選択してもらうよう、地域の高校の学びの内容等の周知に努めたい。

【小野寺 二戸地区中学校長会（一戸町立一戸中学校長）】

- ・ 地区外の学校に転出する生徒数が68人であり、正直多いと感じたところである。二戸ブロックでは、より高い学力で大学進学を考えている生徒については、盛岡地区の学校に進学を希望する傾向にある。
- ・ 一戸高校では系列を選択して専門的な分野を学び、上級学校に進学できることについて中学校教員は理解しているところであるが、中学生や保護者の理解が不十分であると感じている。
- ・ 高校に進学した生徒たちからは、二戸地区内では専門分野の選択肢が少ないという話を聞くことがある。生徒数が減少している中、専門学科の設置は難しいことを考慮すれば、総合学科に多種多様な系列やコースを設置することで、他地区へ進学する生徒は減少するものと考えている。

【五枚橋 九戸村長】

- ・ 二戸ブロックでは 68 人が他地区の学校に進学しており、内訳はほぼ盛岡ブロックの学校となっている。盛岡ブロックは転入者が転出者よりも 367 人多い状況であり、このことは約 9 学級相当の生徒が他地区から転入していることとなる。過疎化が進行する地域もある中、ブロック外への転出を制限する考えがあるのか伺いたい。
- ・ 再編計画においては、望ましい学級規模を 4 から 6 学級としているが、盛岡ブロックには 7 学級規模の学校が設置されている。盛岡ブロックの学級数の維持について、県教育委員会の考えを伺いたい。

【県教委】

- ・ 再編計画の考え方であるが、ブロック毎の学級数を調整した上で、最終的に県全体のバランスを取るものであり、特定の地区のみを考えているものではない。
- ・ 県内の高校入試において、普通科は学区制により学区外からの入学者を 10% 以内に制限しているが、その範囲内において、他地区への進学を目指す生徒に配慮しているものである。
- ・ 来年度入試においては、盛岡ブロックの盛岡北高校、紫波総合高校が学級減の予定であり、盛岡ブロックは転入する生徒が多いことから定員を維持していくということではなく、県全体でバランスを取りながら盛岡ブロックも含めて調整していく考えである。

【馬淵 二戸市 P T A 連合会会長】

- ・ 小学生、中学生の子どもを持つ親でも、少子化に対する意識が希薄であり、P T A 全体の課題として広く共有していく必要があると考えている。
- ・ 二戸ブロックにおいては、大学等への進学者は今後も増加していくものと推測していることから、普通科の定員及び総合学科の系列の見直し等が必要になると考えている。
- ・ 二戸地区は農業関連産業が盛んなので、地域と学校がさらに連携を図り、将来的な方向性を示すことで地域産業に興味を持つ生徒が増えるのではないかと。高校は地域を支える人材の供給元となる役割もあることから、地域の産業を念頭に置いた学科の配置が必要である。
- ・ 中学生アンケートによると、進学を希望する学科は普通科が増加傾向にあるが、進学したい学校が学区内にあると回答した割合が低いことは残念である。

【菅波 軽米町教育委員会教育長】

- ・ 中学生の進路希望は多様化しており、地域の学校、学科の配置について留意する必要があることをあらためて感じたところである。
- ・ 高校には中学校で不登校を経験したり、特別な配慮が必要な生徒も在籍していることから、地元の中学校と高校が密接な関係を保ちながら生徒を育成することが、子どもたちの将来に繋がるものと考えている。
- ・ 普通高校は特色や魅力を打ち出すことが難しいと認識しているが、県が取り組んでいる遠隔教育をさらに発展させることで魅力づくりができるのではないかと。町内の小中学校の授業では I C T 機器を活用して学習効果を高めていることから、高校に入学しても I C T 機器を活用できる教育環境の充実が必要である。

【大沢 二戸市副市長】

- ・ 二戸市としても地域振興や産業振興に積極的に提案しながら取り組んでいきたい。新たな県民計画「いわて県民計画」の中で県北地域の振興や産業振興を大きく取り上げていただいているが、二戸地域も今後の地域を支える人材育成に向けて大事な時期であり、地域を担う産業の発展の面でも人材育成に配慮した学科や系列を維持し、地域行政と歩調を合わせた高校教育を

目指していただきたい。

【県教委】

- ・ それでは、次に2点目「中学校卒業生数が後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から学校統合で対応する考え方等について」に関する御意見をいただきたい。

【山本 軽米町長】

- ・ 各市町村の地域づくりには学校の存在が大切である。軽米高校は2学級になり教員数も減少しているが、中高一貫教育の成果が表れているので、教員加配や複数校を兼務する教員の配置等により教育内容の充実を図り、地域の学校の存続を最重点課題として検討いただきたい。

【五枚橋 九戸村長】

- ・ 高校再編においては、一定の学校規模を確保するために統合を考えるものと思うが、二戸ブロックにとっては学級減と統合は意味合いが大きく異なることから、町村1校の設置を守っていただきたい。
- ・ 伊保内高校は1学級校であり、現場からは生徒の部活動や進路指導において教員数が不足しているという声がある。教育活動に協力できる人材を探すことが難しい地域であり、県教委には人材確保の協力をお願いしたい。
- ・ 部活動等の充実に向けて制度を整備していただければ、財政的な支援をしたいと考えている。
- ・ 普通高校と専門高校、あるいは普通高校同士の校舎制による統合を含め、地域に学校を残す方策を検討していただきたい。

【中嶋 一戸町教育委員会教育長】

- ・ 総合学科については多様性を拡大していくことが重要であるとともに、中学生及び保護者に対して教育内容を理解していただく取組をさらに進める必要がある。
- ・ さらに少子化が進行していく状況は認識しているが、二戸ブロックについては一律的な考え方で再編していくのではなく、現状の学校、学科の維持に向けた地域と学校の協働が必要であると考えている。

【田中 一戸町長】

- ・ 地域の将来を担う人材を育成する観点から、今後どのような教育が必要かを考えた時に、ある程度の集約化が必要であろうし、通学可能な範囲を考えた場合には、校舎制の検討も視野に入れる必要がある。
- ・ 二戸地区は盛岡地区や八戸市にも通学が可能なので、地区外に進学を希望する中学生及び保護者が多いものと推測する。そのような観点から、近傍で学べる環境を整備することは最低限必要であり、校舎制等のたたき台を示していただくことで議論が進むのではないかと。

【鳩岡 二戸市教育委員会教育長】

- ・ 県教育委員会からは、少子化の進行に対応するためには学級減や統合以外の方策もあるとの説明であったが、すでに学級減または統合の二者択一の状況にある。生徒の急減期に入った時代からこの問題は検討されており、生徒の学習権を第一に考えると、もはや慎重に検討する段階は過ぎているものと認識している。
- ・ かつて、二戸地区には浄法寺高校が設置されていたが、福岡高校の校長として勤務していた

当時、浄法寺高校でトランペットを1人で吹いている生徒の姿は衝撃的であった。楽器はみんなまで合奏してこそ喜びがあり楽しい部活動になるものである。このこともあり、早急に福岡高校と浄法寺高校の統合を進めた経緯がある。

- ・ 小規模校でもある程度の教育は可能であると思うが、高等学校教育として生徒の学習権が守られ、充実した教育であるかを考えた場合、教育行政の責任は重大である。
- ・ 統合にあたっては、通学が困難となる生徒が生じる可能性があることから、通学手段を確保し、経済的な負担や不公平がないよう十分に配慮することが県教育委員会の責任である。
- ・ 普通科については国の考え方も示されたところであるが、学科名も含めてどのような教育課程を実践していくべきか考えていく必要がある。県教育委員会では、普通科についての全国的な動向と合わせた議論を進めているか伺いたい。

【県教委】

- ・ 普通科については、政府の教育再生実行会議で提言がなされており、グローバルな人材育成や地域課題への対応等、様々な方向性で検討されているところである。国の提言についての対応もこれから示されるものと思う。
- ・ 後期計画の策定と国の方針が示されるタイミングが多少ずれる可能性があるが、国の動向を十分注視しながら、可能な限り再編計画に反映させて参りたい。

【小野寺 二戸地区中学校長会（一戸町立一戸中学校長）】

- ・ 子どもたちにとって大切なことは、通学可能な範囲に学校があるということである。二戸地区の公共交通機関は必ずしも利便性がよいわけではないので、校舎制による統合等により学級数を調整することで、生徒の教育の機会を保障することが大切である。

【菅波 軽米町教育委員会教育長】

- ・ 当地域では、経済的な理由等も含めて地元の高校を選択する生徒が一定数いると捉えており、学校の統合については、教育の機会の保障の面からも懸念しているところである。
- ・ 伊保内高校、軽米高校をはじめとした県内の小規模校は、例外なく地域と連携した教育活動に力を入れており、後期計画においては、このような視点を踏まえた検討が必要である。
- ・ 子どもたちの多様なニーズに対応するためには、1学年2学級は必要である。財政的な課題もあるが、小規模校の教育の質を高める観点からモデル的に少人数学級を導入し、学級数及び教員数を維持するべきである。

【山田 一戸町PTA連合会会長】

- ・ 学級減か統合かについては、生徒の希望を叶えるために必要な教育の質の定義が明確ではないため、当面は既存の学校を維持する方向で進め、明らかに教育の質が確保できないと判断した時に統合等を実施するしかないのではないかと。
- ・ 二戸ブロックに進学を希望する学校がないことから他地区の学校に進学した場合、地元に戻って就職したいと考える生徒もいると思うが、二戸管内の事業所への就職指導が十分されるものか不安である。

【秋元 九戸村PTA連合会会長】

- ・ 中学生アンケートによると、普通高校への進学を希望する生徒が多い状況にあるが、その先の大学等に進学した場合、地元での雇用があるかという問題がある。
- ・ 高校の進学説明会において、いわて進学支援ネットワーク事業（将来の本県を支える人材の育成や地域の産業振興、地域づくりを担う人材の育成を目指すことを目的とする）の対象は二

戸ブロックでは主に福岡高校であり、福岡高校に入学すれば大学進学に向けた環境が整っているという説明を受けたが、例えば伊保内高校では進学コースを選択することができることから、1学級校であっても進学に対応できるものと認識している。

- また、いわて未来創造人サポート事業（岩手の特色ある産業・文化を支える人材を育成するなど、生徒の多様な進路実現に向けた各県立学校の取組の支援を目的とする）については、神楽等の地域伝統文化の継承に力を入れている伊保内高校が対象校になっており、最終的に娘は伊保内高校への進学を選択し、郷土芸能で全国大会にも出場することができた。
- 小規模校でもこうした事業を積極的に導入し、中学生に対してわかりやすく説明することができれば地元に残る生徒が増えるものと考えるが、このような事業が学校の活性化や地元の学校への進学に効果的であると考える。

【県教委】

- 学校の状況に応じた支援事業等の活用については、人材育成に一定の成果があると考えている。事業名が変更している場合もあるが、同様の趣旨の事業を継続して実施しているところである。

【県教委】

- 本日の地域検討会議では、地域における学校、学科等について具体的な御意見・御提言を頂戴することができた。
- 地方創生の中で高校がどうあるべきか、この地域の将来を考えた時に、これから生まれてくる子どもたちにも、しっかりと教育を保障していくことが重要であると考えている。
- 県立高校の遠隔教育については、現在7校まで拡大して様々な研究を行っているところである。
- 先般、教育再生実行会議では、普通科の見直しについて提言が出されたところである。今後、中教審での議論が始まることとなり、その内容等を踏まえながら県教育委員会として考えていきたい。
- 県教育委員会では、今後の高校教育のあり方について、教育の質の保証と機会の保障を柱とすること、そして、高校再編は数ありきではないことを申し上げているところであるが、今後、さらに生徒数が減少し、厳しい現実となることは我々も認識しており、このことについては地域の方々にも御理解いただきたい。
- 本日頂戴した御意見は、後期計画の策定に十分に参考にさせていただきたい。今後とも、本県教育の振興のため、一層の御理解と御協力を賜りたい。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第3回)【二戸ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	二戸市	大沢 治	二戸市 副市長	代理
2		馬淵 貴尋	二戸市PTA連合会 会長	
3		鳩岡 矩雄	二戸市教育委員会 教育長	
4	軽米町	山本 賢一	軽米町長	
5		小野寺 祐治	(株)アイソニック軽米事業所 代表取締役	
6		山田 一夫	農業組合法人アグリプロ軽米 代表理事	
7		菅波 俊美	軽米町教育委員会 教育長	
8	九戸村	五枚橋 久夫	九戸村長	
9		秋元 光浩	九戸村PTA連合会 会長	
10		高倉 孝一	九戸村教育委員会 教育次長	代理
11	一戸町	田中 辰也	一戸町長	
12		瀧 博司	(株)一戸ファッションセンター 代表取締役社長	
13		山田 晃	一戸町PTA連合会 会長	
14		中嶋 敦	一戸町教育委員会 教育長	
15	地区中学校長代表	小野寺 一行	二戸地区中学校長会(一戸町立一戸中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
16	県議会議員	工藤 大輔	岩手県議会議員	
17		五日市 王	岩手県議会議員	
18		工藤 誠	岩手県議会議員	
19	県立高等学校	高橋 正勝	軽米高等学校長	
20		高橋 良一	伊保内高等学校長	
21		千葉 勝幸	福岡高等学校 副校長	
22		池田 明宏	福岡工業高等学校長	
23		鈴木 博	一戸高等学校 副校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
24	県教育委員会 事務局等	菅野 広紀	県北教育事務所長	
25		秋山 武	県北教育事務所企画総務課長	
26		坂本 真	県北教育事務所指導主事	
27		梅津 久仁宏	教育次長	
28		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
29		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
30		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
31		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
32		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
33		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	